

～県内中小企業におけるデザイン活用の探求～

令和3年地域政策研究センター 地域協働研究【ステージⅡ】採択課題

課題名：県内中小企業におけるデザイン活用に関するモデルの社会実装とインフラ構築
 ー岩手発〔地方版〕デザイン経営モデルと支援システムの確立ー

研究代表者：総合政策学部 准教授 三好純矢

課題提案者：地方独立行政法人岩手県工業技術センター

研究メンバー：近藤信一（総合政策学部）、永山雅大（地方独立行政法人岩手県工業技術センター産業デザイン部）

キーワード：デザイン経営、デザイン人材、中小企業、感性価値

▼研究の概要（背景・目標）

本研究は、県内中小製造業企業におけるデザイン経営モデルの構築が目的である。実証協力企業の(株)東光舎、および(株)アイカムス・ラボ/(株)IDEALを対象に、感性を起点としたマッチングに基づき外部デザイン人材と製品開発を行った。

▼研究の内容（方法・経過）

1. 調査対象：

(株)東光舎、(株)アイカムス・ラボ/(株)IDEAL

2. 調査内容：

感性を起点にしたマッチング、および新製品開発におけるデザイン活用の社会実装における参与観察、インタビュー調査

▼研究の成果（結論・考察）

1. 感性を起点としたマッチングのフレームワーク提示

2. 感性を起点としたマッチングプロセスの具体化

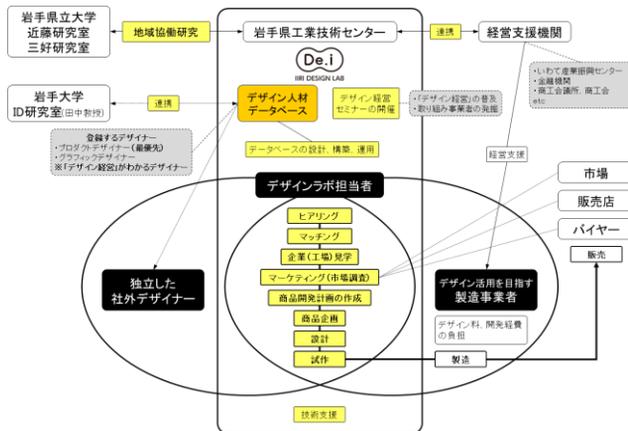
3. 円滑にデザインを活用できる企業の組織体制と担当者の明確化

4. デザイン活用における評価の検討

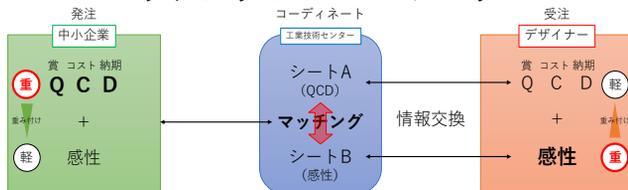
5. 中小企業のデザイン活用の支援体制の構築

6. インターフェース人材の育成の必要性

研究体制



成果1: 中小企業とデザイン人材のマッチングフレームワーク



成果2: 企業体制と担当者によるデザイン活用への影響

	円滑にデザインを活用できる企業	デザイン活用が難航しやすい企業
組織体制	デザイン活用の経験が蓄積されている	デザイン活用の経験が乏しい
インターフェース人材 (デザイン担当者)	デザインプロセスを理解している	デザインプロセスの理解が乏しい
デザイン活用への影響	インターフェース人材以外の従業員や経営者もデザインの重要性を理解しており、顧客の使用場面が想定されている。	技術に頼った設計で、コストや機能が優先され、顧客の視点が乏しい。

▼おわりに（まとめ・今後の展開）

1. 生産ワーク、販売ワーク、市場投入についてのデザイン活用を検証

2. 新製品に対する顧客の評価や販売実績などに基づき、本研究のデザイン活用の枠組みがどのように成果として判断できるのかを検証

3. ご協力頂いた(株)東光舎、および(株)アイカムス・ラボ/(株)IDEALの皆様には深く御礼申し上げます。

